



遣伯使見聞録



Vejo você de novo (また会いましょう)

1か月のパラナイでの研修を報告する機会をいただきました。忙しい中、教育長、教育局の交流担当者、豊橋に研修に来ていた先生たちが、報告会に参加してくださいました。このブラジル通信の題名でもある「遣伯使見聞録」を報告の主題とし、まずその意味と自分が感じたままを話すということを説明しました。説明の資料となるパワーポイントについては、豊橋市役所の教育部・多文化共生国際課の方に原稿を送り、ポルトガル語に翻訳していただきました。ありがとうございました。

【報告会で伝えたかったこと・伝えたこと】

- 子どもたちは「学校が好き」 ←もっと勉強のおもしろさを伝えてほしい
- 栽培活動や環境教育などに取り組んでいる学校があった。日本の総合的な学習のように各学校の特色を生かせる時間を設定しては！
- 公教育なので、学校による施設・設備に差を作らない。
- 教員同士が授業を見合い、意見を述べあう研究授業を行っては！
- IDEBは大事、でも IDEBの結果がすべてではない。IDEBはその学校の指導や子どもの実態の指標の一つ。普段の授業を大事にしてほしい。
- 元気のいい子たちを相手に、毎日がんばっている先生たちの実態が分かった。男性教員が増えるといい。がんばりに見合っただけの給料があってもよいのでは！？
- 授業では、子どもたちに本物体験をさせたい。子どもたちに、考えること、わかること、できることの喜びを味わわせたい。
- ※ 社会背景も家庭の状況も悪い中で生活している子どもも少なくない。「善悪の判断」「努力することの大切さ」「できるようになる喜び」「人を思いやることの大切さ」それを実感させられるのは学校しかない。
- ※ 今日発表したことは、ブラジルに来て、学校に行き初めて分かった。教育の向上のために、パラナイ市と豊橋市の職員や研修生の派遣交流を継続し、発展させていきましょう。



納得して、うなずいている方が多かったです。学校の子どもたちと同じで、自分が話している途中でも、思いや質問を発言するところがブラジルらしかったです。

最後に、元気で明るく、澄んだ瞳の子どもたちに出会えたことを感謝しました。そしてこの研修については、豊橋市教育委員会、パラナイ市教育局、19校の校長先生はじめ先生方、通訳さん、運転手さんのおかげで貴重かつ有意義な研修ができたことにお礼を言いました。

★帰国者との懇談

日本から帰国した方たちとの懇談をする機会がありました。一組のご家族とじっくりお話をさせてもらいました。

- ・日本は住みやすく、仕事も子育てもしやすかった。
- ・外国籍が少ない地域に住んでいた時は差別があり、かなり悩んだ。
- ・帰国し、日本語を忘れないようにしている。
- ・家族で日本に住もうとしている保護者には「どういう目的で行くのか」「子どもが何歳なるまで日本にいるのか」はしっかり考えをもつべきと言っていた。

家族で日本に行く以上、子どものことを一番に考えるべきという思いを強めた懇談になりました。



有り難い ～ナッツコラム～

研修報告会や子どもたちへの学校紹介をしているとついついナッツは「日本はいい！日本はすごい！」って言ってしまいそうになる。日本に研修に来ていた先生たちもよくそう言う。そもそも国柄や教育環境が違うから「そうは言っちゃいかん」ってナッツはプレーキをかける。「上から目線はいかん」って思っている。ある学校の掲示に「有難う」という言葉があった。「有り難い=有ることが難しい=それくらい貴重・感謝」…そこまでの意味を理解して掲示してはないと思うけど、「有難う」という言葉に謙虚さを思い出したナッツだった。(ナッツの腕時計より)

